

【事業の経緯】

別添資料1

漁港-1 有喜漁港関連道事業の経緯

審議経過	再評価 の理由	工 期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H8新規評価)	—	H8	H18	13.5	1.53	道路 997m
第1回審議 (H18)	再評価後 5年経過	H8	H25	17.2	1.10	道路 962.7m
第2回審議 (H23)	再評価後 5年経過	H8	H25	19.3	1.22	道路 962.7m
第3回審議 (H28)	再評価後 5年経過	H8	H30	21.0	1.06	道路 962.7m

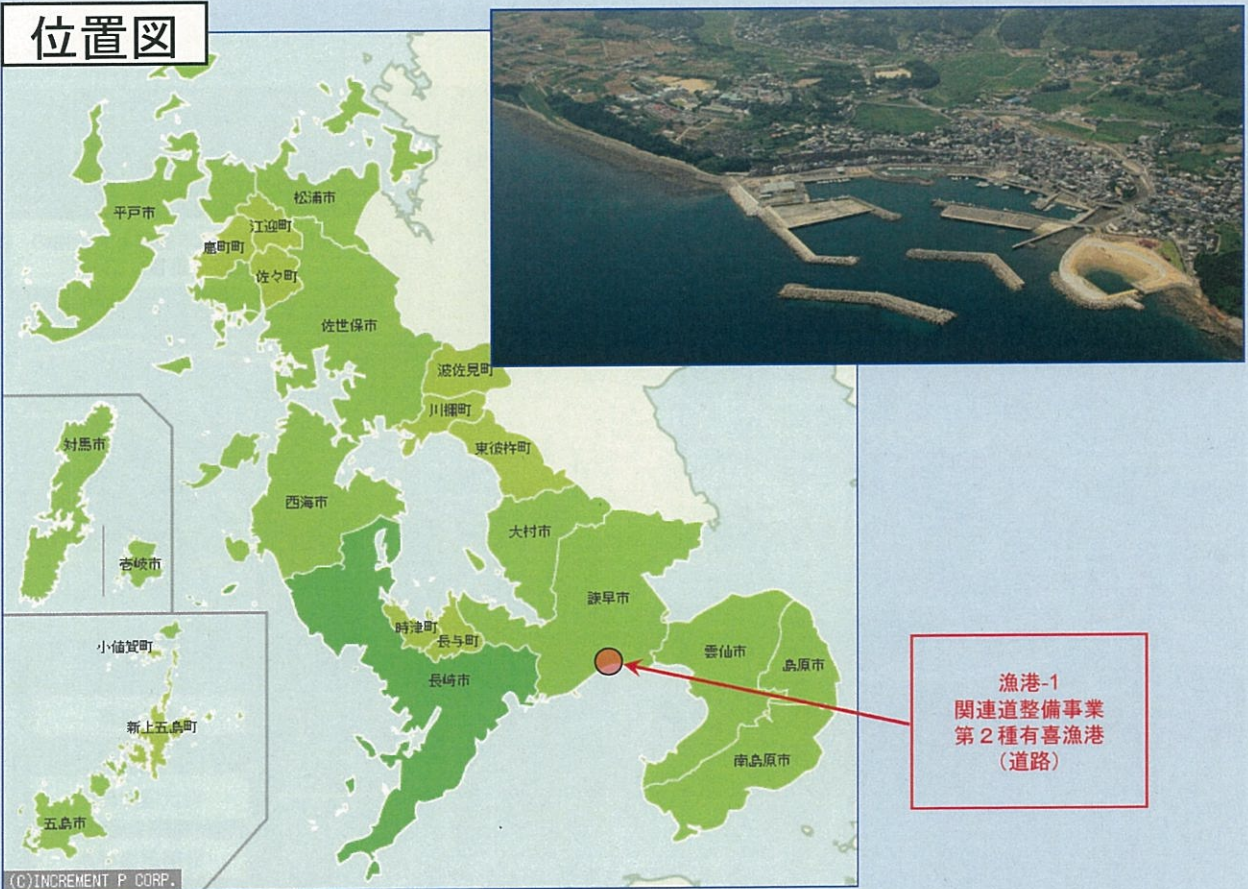
平成28年度
長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

漁港-1 関連道整備事業
第2種有喜漁港
(道路)

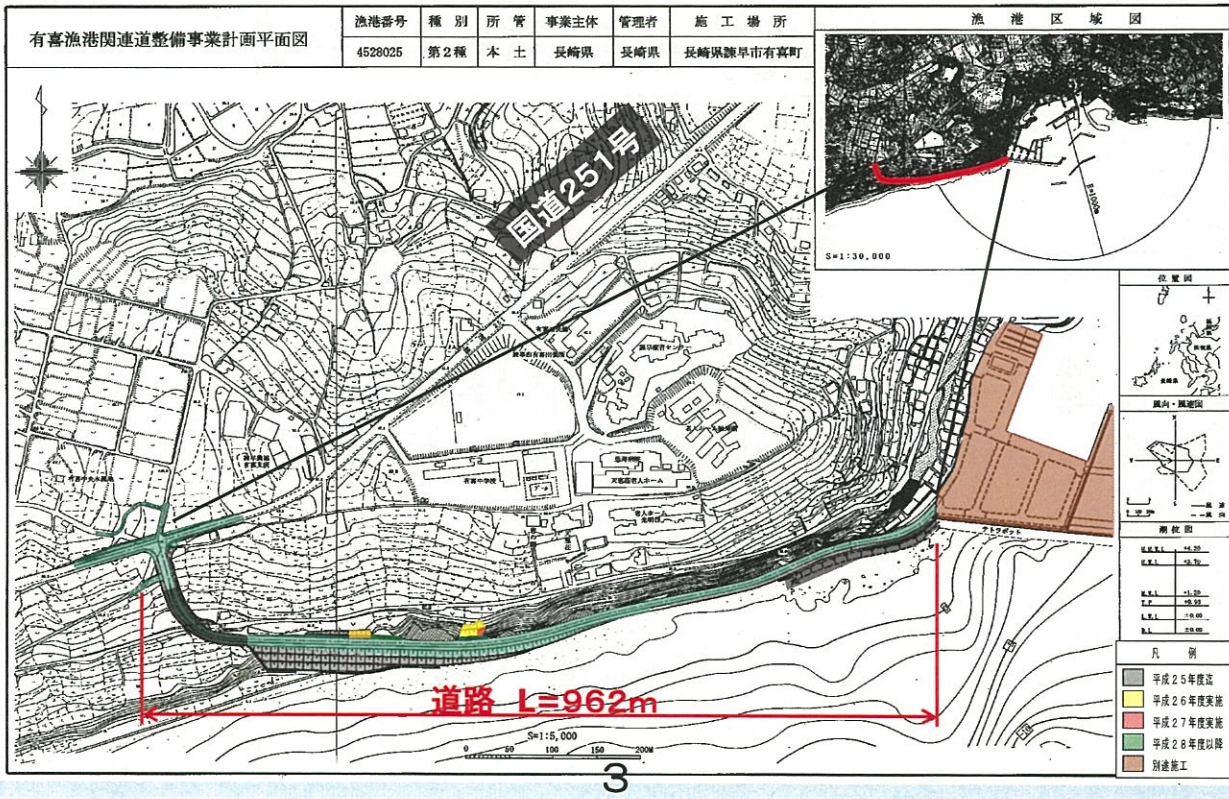
長崎県

位置図



事業概要

有喜漁港関連道整備事業



事業の必要性



事業の必要性

児童・生徒の通学路と水産関連運搬経路の重複状況



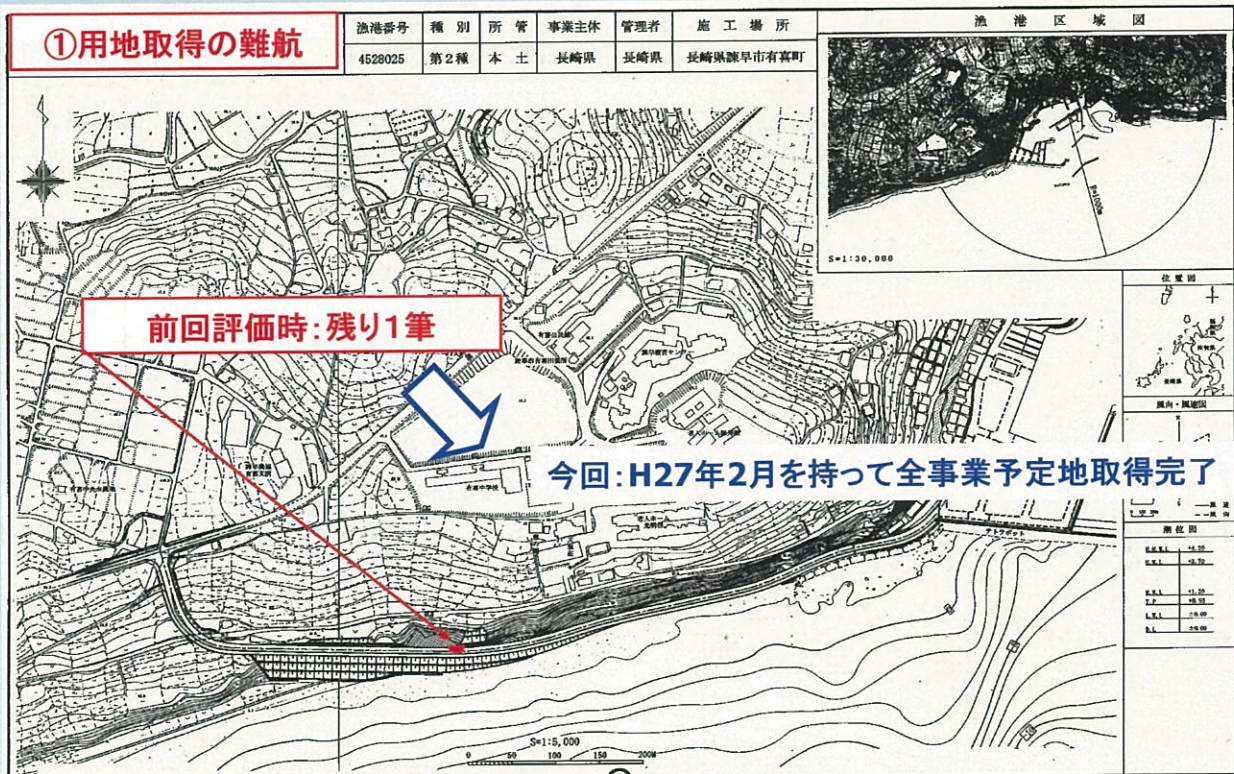
小学生を避ける為、
反対車線を通行して
いる鮮魚運搬車

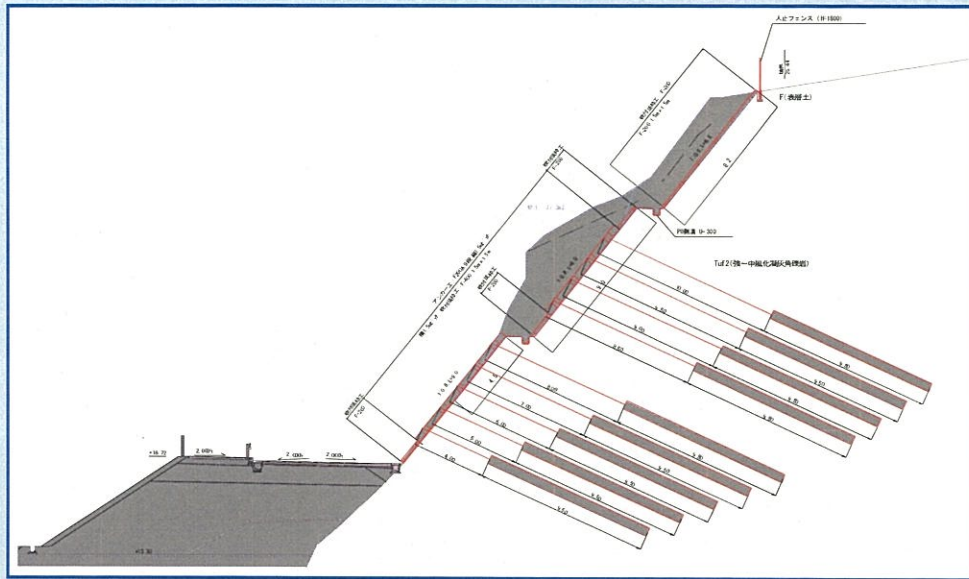


歩道が無い為、車道を歩く小学生

再評価に至った理由(1)

【完了工期】H28(前回) → H30(変更)





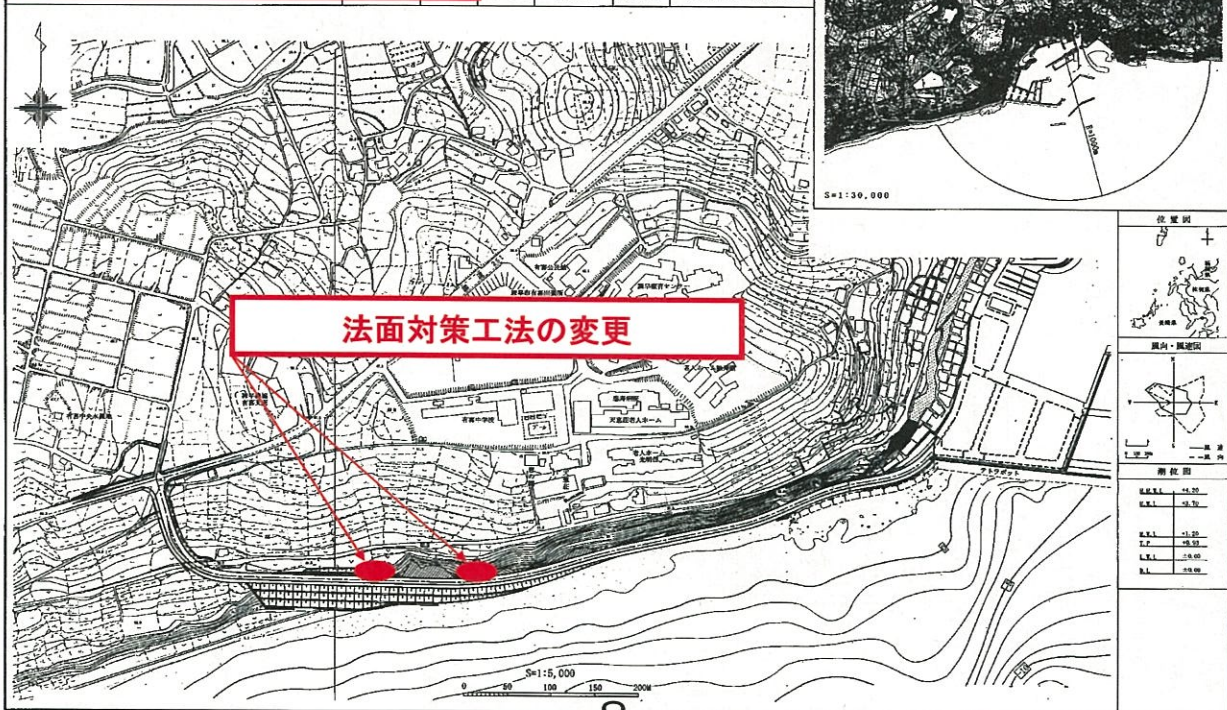
	H28												H29												H30											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
法面工事	[Yellow bar]												[Yellow bar]																							
舗装工事																									[Yellow bar]											

再評価に至った理由(2)

【事業費増】19.3億円(前回)→ 21.0億円(変更)

②工法変更による事業費の増加

所管	事業主体	管理者	施工場所
本土	長崎県	長崎県	長崎県諫早市有喜町



【事業の経緯】

別添資料1

漁港-2 巖原東地区農山漁村地域整備交付金の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H12新規評価)	—	H13	H22	33.1	1.25	防波堤240m -3m泊地400㎡ -3m岸壁100m 浮棧橋1基 用地4420㎡ 道路170m
第1回審議 (H17)	評価後 5年経過	H13	H22	36.0	1.16	防波堤249m、-3m泊地400㎡ -2m泊地2500㎡、-3m岸壁100m -2m物揚場(改良)72m 用地3200㎡、道路170m 防波堤30m、導流堤(改良)100m 護岸(改良)40m -2m物揚場(改良)50m 防波堤90m 魚礁1900空m3
第2回審議 (H23)	再評価後 6年経過	H13	H28	38.0	1.19	防波堤249m、-3m泊地400㎡ -2m泊地2500㎡、-3m岸壁100m -2m物揚場(改良)72m 用地4420㎡、道路170m 防波堤30m、導流堤(改良)100m 護岸(改良)40m -2m物揚場(改良)50m 防波堤90m 魚礁1900空m3
第3階審議 (H28:今回)	再評価後 5年経過	H13	H32	49.7	1.10	防波堤179m -2m物揚場(改良)62m -2m泊地(補修)2500㎡ 防波堤30m -2m物揚場(改良)50m 防波堤90m 防波堤(改良)225m 魚礁1900空m3

平成28年度 再評価実施個所別表
 (農山漁村地域整備交付金(地域水産物供給基盤整備事業))

担当部課名:水産部漁港漁場課

地区名(漁港・漁場名)	巖原東地区(内院漁港、安神漁港、久和漁港、安神漁場)
事業名	農山漁村地域整備交付金(地域水産物供給基盤整備事業)
事業主体名	対馬市
再評価対象事由	再評価後5年経過
事業目的	本地区は、防波堤の整備不足により、港内の静穏が悪く、漁船の安全な係留ができない。このため、安全で快適に出漁準備、荷揚げ作業が行えるように、防波堤の新設を主体として、各漁港施設の整備を行う。

		計	画
事業実施期間		H13~H32	
全体事業費		4,966百万円	
(進捗率)		(71%)	
平成27年度迄投資額		3,506百万円	
平成28年度当初予算		419百万円	
主な事業内容(○はH29以降計画があるもの)			
内院漁港			
○	防波堤	179m	
○	物揚場(改良)	62m	
	泊地(補修)	2500㎡	
安神漁港			
	防波堤	30m	
	物揚場(改良)	50m	
久和漁港			
	防波堤	90m	
○	防波堤(改良)	225m	
安神漁場			
	魚礁設置	1900空m3	

漁業情勢、社会経済情勢等の変化			
	計画策定時(H25)(H22港勢)		再評価時(H28)(H25港勢)
登録漁船	99隻		72隻
利用漁船	190隻		111隻
(漁業生産額(属地))	(142百万円)		(122百万円)
漁業生産量(属地)	135トン		143トン
(正組合員数)	(28人)		(24人)
組合員数	74人		71人
漁業情勢、社会経済情勢等の変化の原因			
漁業生産量は増加傾向にあるが漁業後継者の減少及び漁業従事者の高齢化も深刻な問題となっている。			

整備効果の発現状況(供用開始状況等) 安神漁港、安神漁場は、完了済み。平成25年度には久和漁港の西防波堤(改良)、A防砂堤が完了し港内の静穏度が向上したことにより、陸揚げ及び係留作業の効率化、省力化が図られた。

未着工及び工事遅延等の理由及び解決の見通し 平成20年度に冬期風浪により手戻り工事が発生、平成22年度には台風により51mが被災、平成25年度には台風により17mが被災し進捗に大きな影響を受けた。

費用対効果分析手法の活用の有無	B/C(前回)=1.19	B/C(今回)=1.10	変動額
総 便 益 B	53.3億円	73.7億円	20.4億円
総 費 用 C	44.7億円	67.1億円	22.4億円

項目	変動内容	変動額
(便益)	港内静穏度の拡張による漁船修理費用の削減、港内静穏度の向上に伴う船揚作業日数の削減効果の項目の追加	18.2億円
	より【水産物生産コスト削減効果】の便益額が増加。	2.2億円
	その他社会情勢の変化により増。	
Σ 便益変動額		20.4億円
(費用)	見直しによる事業費の増(防波堤:29億円⇒48.5億円)。	19.5億円
	その他社会情勢の変化により増。	2.9億円
	Σ 費用変動額	

コスト縮減の可能性 無し
 事業主体における再評価の結果に基づく対応方針(案) 継続
 (コメント) 漁港施設の質的な改善(港内静穏、漁船係留)により漁業従事者の安全で快適な労働環境の改善を図る。

平成28年度 長崎県公共事業評価監視委員会

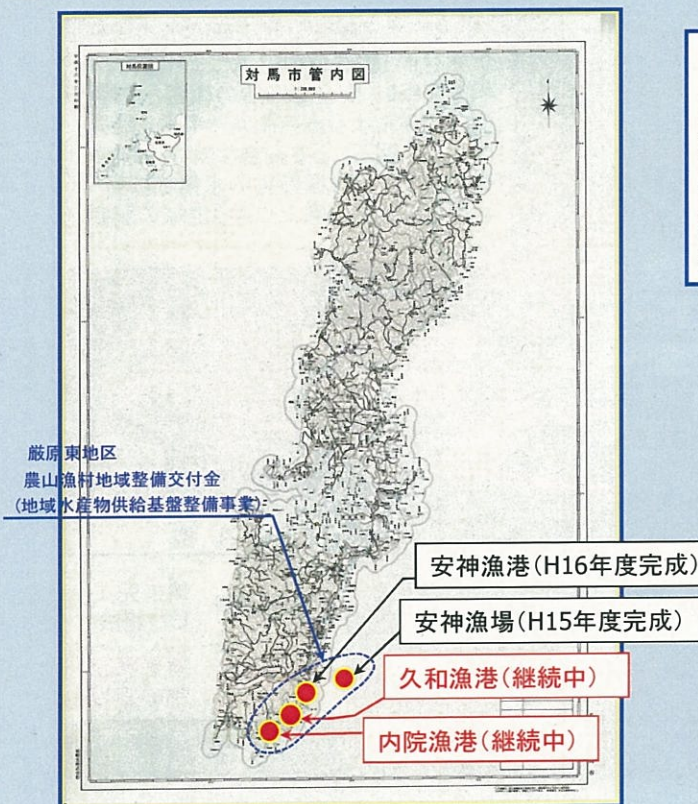
再評価対象事業

漁港-2 厳原東地区 農山漁村地域整備交付金 (地域水産物供給基盤整備事業)

対馬市

1

位置図



・厳原東地区は、対馬島の南東部に位置し、漁業を中心とした集落を形成している。水産業が最も重要な基幹産業であり、漁港整備による漁業所得の安定と永年的な漁村の形成が望まれている。

〈厳原東地区〉

- 内院漁港
- 久和漁港
- 安神漁港:完了
- 安神漁場:完了

2

事業概要

巖原東地区 内院漁港



事業概要

巖原東地区 久和漁港



越波状況写真(内院漁港)



平成22年8月撮影

【A防波堤】



平成22年8月撮影

・港内静穏が確保されておらず荒天時や台風時には他港へ避難している状況である。そこでA防波堤を整備し港内静穏を確保することで他港避難が解消できる。さらに港内静穏が確保できたことで蓄養水面を使用し生け簀が増加することで魚価が高値の時に出荷することができる。

現況写真(内院漁港)



【-2m物揚場(改良)】



・潮の干満差により陸揚げ作業に苦慮している状況である。そこで潮の干満差に対応できる浮体式係船岸を設置し陸揚げ作業の軽労化を図る。

越波状況写真(久和漁港)



平成22年8月撮影

【沖防波堤(改良)】



平成22年8月撮影

・ 荒天時及び台風の影響で堤体の滑動や前面消波ブロックの沈下により頻りに越波し、係留漁船の他港避難や生け簀が破損する被害を受けており沖防波堤を改良することで他港避難の労力の軽減や生け簀の修理費の軽減が見込まれる。

再評価に至った理由(1)

【内院漁港】

【完了工期】H28(前回)→ H32(変更)



・ 冬期波浪によるA防波堤の手戻り工事の発生及び台風による被災により完了工期を平成32年度まで延長。
・ 台風による被災を受け、被災時の波浪に対応した断面への改良による事業費の増。

再評価に至った理由(2)

【内院漁港】

【今後の工程】



9

再評価に至った理由(3)

【久和漁港】

【完了工期】H28(前回)→ H32(変更)

【今後の工程】



10

再評価に至った理由(4)

【事業費増】38.0億円(前回)→ 49.7億円(変更)

平成23年度事業量

〈内院漁港〉

- ・防波堤 L=249m →縮小
 - ・-3m泊地 A=400㎡ →廃止
 - ・-2m泊地(補修) A=2,500㎡
 - ・-3m岸壁 L=100m →廃止
 - ・-2m物揚場(改良)L=72m →縮小
 - ・用地 A=4,420㎡ →廃止
 - ・道路 L=170m →廃止
- 〈久和漁港〉
- ・防波堤 L=90m
- 〈安神漁港〉
- ・防波堤 L=30m
 - ・導流堤(改良)L=100m →廃止
 - ・護岸(改良)L=40m →廃止
 - ・-2m物揚場(改良)L=50m
- 〈安神漁場〉: V=1,900空m³



平成28年度事業量

〈内院漁港〉

- ・防波堤 L=179m←縮小
 - ・-2m泊地(補修)A=2,500㎡
 - ・-2m物揚場(改良)L=62m←縮小
- 〈久和漁港〉
- ・防波堤 L=90m
 - ・防波堤(改良) L=225m ←追加
- 〈安神漁港〉
- ・防波堤 L=30m
 - ・-2m物揚場(改良)L=50m
- 〈安神漁場〉V=1,900空m³

〔事業費増の主な内容〕

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①事業量の見直し	約8.2億円	自然条件の見直しにより久和漁港の防波堤(改良) L=225mを追加した。
②手戻工事、災害	約3.5億円	異常気象や台風による被害をうけたため事業費が増となった。
計	約11.7億円	

11

費用対効果分析

【B/C】1.19(前回)→ 1.10(現行)

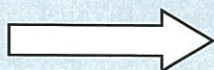
〔マイナス要因〕

- ・事業費の増(事業量の見直し)
- ・工期の延長(手戻り工事、災害復旧)

〔プラス要因〕

- ・費用対効果算定マニュアルの改定
- ・防波堤の改良により他港避難の解消
- ・防風柵の設置により係留作業の軽労化

- ・漁獲量が増加している。
- ・漁業が基幹産業である。
- ・費用対効果 1.10



事業継続

12